

平成 21 年度 文部科学省 研究開発評価シンポジウム
研究開発評価システム改革の実施と具体的な展開

パネル・ディスカッション

東京, 富士ソフト アキバホール
2009 年 11 月 9 日

パネル・ディスカッションの目標

- 本シンポジウムの冒頭で紹介された
「研究開発評価システムの方向性について（審議のまとめ）」
を踏まえて、
- まず、
その評価システム改革の基本的な考え方とそのポイントについて、
関係者間で意識の共有やその向上を図ることを狙いとする。
- そして、
資金配分機関や、
大学、研究開発独立行政法人等の研究開発実施機関といった
現場において、
この評価システム改革を実現していく方策を探っていく。

評価システム改革の基本的考え方

「研究開発評価システム改革の方向性について（審議のまとめ）」

（平成 21 年 8 月 4 日，科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 研究評価部会）から

1. 目的に応じた評価システムの再構築

cf. 「審議のまとめ」 1. 1.

2. 階層構造と階層間の関係が明確化された評価システム群の形成

cf. 「審議のまとめ」 1. 2.

3. 一貫性のある評価とマネジメントの実施

cf. 「審議のまとめ」 1. 3.

パネル・ディスカッションにおける論点（全体）

1. 研究開発現場における評価システムの改革の現状と課題
 - 現状と課題に関する，参加者との共有
2. 研究開発評価の健全な実施を通じた研究開発システムの改革
 - 「審議のまとめ」で示された方向性の意味や意義についての，参加者との共有
3. 評価システム改革における関係機関等（大学・研究開発機関，資金配分機関，評価専門機関（もしくは評価専門人材））の役割
 - 改革を実現していく方策についての，参加者各自による熟考

論点 1. 研究開発現場における評価システムの改革の現状と課題

現状と課題に関する、参加者との共有

- 1990年代後半からの研究開発評価システムの導入・定着により、どのような効果があったのか？
- (研究者から、また国民・社会からの) 期待に応えられていない部分はどこか？
- 評価システムの展開に伴う弊害があるとするれば、それはどこか？

論点 2. 研究開発評価の健全な実施を通じた研究開発システムの改革

方向性（「審議のまとめ」）の意味・意義についての、参加者との共有

1) 論点 1. の課題の改善のために必要な方策（インフラ整備, 専門人材の必要性等）

cf. 「審議のまとめ」II. 2., 3.

- 現状の評価システムを前提とした上で,
その効率的・効果的实施のための体制はどうあるべきか？

2) 研究コミュニティの活性化を促進する評価

cf. 「審議のまとめ」II. 1. (4); (3), (5), (2)

- 何が日本の研究コミュニティにとっての問題であり,
それを評価によっていかに改善できる可能性があるか？

論点 2. 研究開発評価の健全な実施を通じた研究開発システムの改革 (続き)

3) 評価文化の醸成

cf. 「審議のまとめ」 II. 4.

- 評価の意義や重要性を共有できる評価文化を醸成するためにどのような取り組みが必要か？

論点 3. 評価システム改革における関係機関等（大学・研究開発機関、資金配分機関、評価専門機関（もしくは評価専門人材））の役割

改革を実現していく方策についての、参加者各自による熟考

- それぞれの立場で何をすべきか？

それらを実現していく上で課題・問題点があるとすれば、それらは何か？

それらの課題・問題点を克服するためにどのようなアイデア等がある？

- 国に望むことがあるとすれば、それは何か？